

ホーム名：グループホームあおやま2F					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』として理念を掲げたことで、職員本位にならずに必ず入居者の立場になってその方の想いを達成できる関わりに努めている。月1回の全体会議で理念を唱和し意識付けをしている。	理念は、利用者本位の立場で支援していこうとする事業所の方針が明瞭に謳われている。入居者の自筆で書かれた文字は各階のエレベーター近くの壁に掲げられている。職員はこれをよく理解し、日々の支援活動に繋げている。	理念は事業所の福祉支援の基盤でもある事からパンフレットにも記載されては如何だろうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	職員と共に買い物へ出かけられる方は少なくなったが、新入居者様も増え今後も地域に関わって頂き近辺を知って頂く。近隣のGHとの交流会には今も積極的に参加している。また今年度は他の施設の行事に入居者様が参加する予定である。	地域全般的な交流の取り組みとしてGHどうしの会合に出席し情報交換などを行っている。施設の立地条件の面から、やや近隣の方との出会いはあまり多くはないが、挨拶などを通して親しんでもらっている。	施設内行事於いても、他の施設の入居者等を招待され、相互扶助の関係を構築させて頂きたい。近隣の方々には、地域包括の方や老人会にも相談され、手伝いや参画も求められてはどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族との話し合いの中で、GHでの取り組みや認知症の方への関わり方法をお伝えする事はあるが、地域の方へとなると、貢献はまだ積極的には出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度行っている会議での意見や情報・提案などを踏まえ、すぐに取り組めることは早急に、検討が必要な場合は上位会議で報告・相談して反映させて頂いている。行事報告では、ビデオ撮影したものを視聴していただき見て分かりやすい内容となっている。	運営推進会議には市職員、包括支援センター、民生委員、老人会、区長からの定期的な出席があり幅の広い人的構造を有している。施設内の行事の様子を視聴覚的な方法で紹介したり新たな取り組みや意見交換も行われている。	内部会議の近況報告において十分な配慮をされた上での視聴覚的な説明方法を採用されている。通常の説明よりはわかり易いかも知れないが、これからも視聴覚上の十分な配慮が必要とされよう。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の職員とも、介護保険上の事や加算に関する事、運営上に不明な点を相談させて頂くとすぐに回答を頂けていることから円滑な関係を構築させて頂いている。市の地域包括支援センターから藤井寺音頭の曲に合わせた体操のDVDを頂き活用した。	事業運営の相談事や法令上の知識を打受けたり地域との関係強化の機会を求めたりしている。藤井寺音頭の体操の紹介も受けたりして支援活動の充実化に利用している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはGH職員のみならず、法人職員も禁止意識は高い。フロア内エレベーターについては暗証番号制御されており、誰かと共に外出して頂くシステムになっている。外部内部の『身体拘束、虐待について』の勉強会に参加して自設で振り返り勉強会を行っている。身体拘束の適正化の為の対策、検討について考察し運営推進会議で報告している。	運営規定に「身体拘束は行わない」と明記され全職員はその認識の下での支援を実践している。協力医療機関の研修に参加したり、施設内での勉強会を実施したりして意識づけを行っている。エレベーターの使用は、入居者の安全のために、職員と一緒に利用するようにしている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所不在での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の入り口には乱れた接遇があると考えている。言葉遣いから始まる多種の接遇面を職員皆が守る事が、ひいては虐待防止につながると思っている。虐待防止についての定期的な意識向上を行っていき職員間で注意しあう様にしている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>二名の入居者が後見人制度を利用されている。弁護士との連絡もこまめに行っており関係性は円滑である。ただ、後見人制度そのものには学習不足は否めないことから、さらなる知識向上が求められ今後の課題にも成る。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を踏まえた説明でご了承いただいている。料金や加算の変更についても即時入居者家族に連絡しご了解いただいている。疑問が出ればすぐにご連絡頂ける関係性も構築できている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>上記にあるように疑問・提案・苦情があればすぐに連絡頂ける関係性はある。事業所で回答が難しい場合は上位会議にて議題としてあげている。早急な対応で解決に繋げている。玄関先には意見箱を設置している。</p>	<p>運営推進会議に出席してもらい要望、意見、提案などの発議願っている。些細な事などは訪問時に直接話されている。家族はあまり積極性はないようだが、対話は欠かさないようにし、運営に反映できるように努めている</p>	
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一回、フロア単位の会議とGH全体の会議を開催している。会議一週間前には職員個々に議案を提出してもらい、回答を集め、皆の意見が会議内ですぐに話し合える状況を作っている。正職員やパートの意見が同等に扱われるように上位職は心がけている。</p>	<p>支援や介護に携わる担い手として職員やパートの方の意見や提案は対等に扱われている。事案はフロア会議での審議を深めるため事前提出してもらっている。審議はGH全体会議に引き継がれ運営に反映できるように努めている。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>7月に人事考課を行っている。自己評価と直属上司による一次考課、管理上司による二次考課を行い、正当な評価が受けられるように取り組んでいる。考課表を示す事で職員自身も何をすべきことなのかを把握できる効果がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>GHには学習委員会を設置しており、自主研修・他事業所との合同研修を定期的に行っている。隣接している青山病院その他グループ事業で行われている参加可能な研修にも進んで足を運んでいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>近隣GHとのつながりを持つために『グループホームの集い』に参加している。一ヶ月に一度は計画作成担当者の集まりがあり、入居者・職員の交流の月もあり、それに参加している。職員同志の意見交換の場にも参加する職員が増えて来た。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時のアセスメントはもとより、家族にも協力して頂き、その方の想いを教えて頂くような用紙を用意している。</p> <p>職員は入居者ごとの担当者を決めており、まずはその担当者を先頭に関係性を深めていき不安や要望を話して頂けるよう心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時では家族の状況・不安・要望を必ず聞き取っている。入居直後は特に家族への情報提供は欠かさない。上記にある入居者ごとの担当者が月に一度『あおやま便り』という手書きのお手紙を写真を添えてお渡ししている。情報発信として行っているブログを見て頂いている声もある。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時には生活歴を聞き、その方の今ある状況を受け止め、その方に合った支援を提供するよう心掛けている。直後は絶えず家族と情報交換を行い、ケアの見直しや展開を相談、連絡をしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理・掃除などの家事については積極的に協力して頂いている。自立支援の観点でもあるが、「共に力を合わせて暮らしている」ということを入居者にもメッセージとして表したいための取り組みである。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の訪問は多い。秋祭りやクリスマス会など大きな行事には多数出席して下さるなど協力して頂いている事は多い。家族との繋がりをいつまでも持つていただけるように関わっており、家族もそれに応えて下さっている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近隣にお住まいの方が多きことから、友人の面会も多い。誕生日に昔懐かしい店に食事に出かけるなどのレクリエーションを行っている。</p> <p>シルバー対象の旅行会社を利用して日帰りでのお出かけされる方もおられ楽しみにしておられるようになった。</p>	<p>入所時には本人や家族から馴染みの場所や人の情報を聞き取りし、職員間で共有を図っている。友人と一緒に美容院に行く人もいる。誕生日には馴染みの食堂に出かける支援もしている。家族の協力と旅行社の手配で遠出をする方もいる。施設は入居者や家族の希望が叶えられるように努めている。</p>	
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>GH自体の建物が広くない事も功を奏してか、入居者は一応にしてリビングに出て来られる。入居者様同士でTVの話題で話が膨らむ場面もよく見られる。入居者同士が協力し合い家事の手伝いを分担したり菜園活動に参加している。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>過去に退居された方であっても、法人として、またGH職員として関わっていることは少なくない。家族様がホームで過ごされた時間を懐かしんで頂き時としてGHに訪れお話をされる方もおられる。</p>		

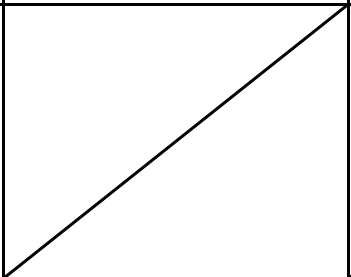
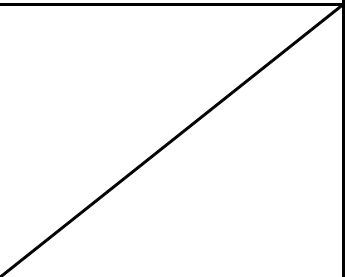
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』とあることから、ケアマネジメントはもとより職員全員が入居者本位のケアを前提に行動している。スタッフそれぞれが出来る『自己決定の尊重』を考え意見をまとめてそれを実施している	入居者の意向や希望を把握するために現況メモを利用し、職員が互いに話し合うようにしている。飲み物や好みのものは絵に表したものを指さしてもらい正確さを図っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時のアセスメントは生活歴や嗜好を教えて頂けるような用紙も用意している。直接の情報収集は当然行っている。居室担当者が3ヶ月に一度アセスメントを行い情報収集にも努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ごとの担当者を設置しており、その担当者が会議にてその方の心身状況の変化が見られれば発表し、全員が把握できる状況を作っている。	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家人の面会が多く、プランに反映できるように会話の中でのニーズを逃さないように心がけている。月に一回行うフロア単位の会議にて入居者のプラン見直しの会議を設けている。チームでのサポートを行うためにもほぼ全員からの情報発信をうながしている。	管理者は13年の介護歴があり、計画作成担当者の二人もそれぞれ15年と17年の介護歴を有している。介護計画では個人毎に行なうモニタリングや家族の要望も考慮され反映させている。長期計画は一年間とするも健康状況の変化に応じて適宜、見直しはされる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をきめ細かく記載するとともに、情報メモという支援記録と気づきが記載できる書類を通じて職員間の情報共有を図っている。それに基づくモニタリングを計画作成担当者は実施している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHの建物の一階部分が通所リハとなっていることから、通所リハのPTに相談できる環境であり、そのPTもフロアに来てその対象者を直接に見たうえでの動作訓練を職員にできる環境である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は近くに図書館があるので利用される入居者がいたが現在は利用をしていない。入居者の誕生日には地域のカフェを利用しお祝いをさせて頂いている。新たに地域資源を活用するイベント（外出し買い物など）を企画していきたい。	
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の訪問診療を受けられる方が多くなってきたが馴染みのかかりつけの病院に受診される方もおられる。各医療機関とは相談できる関係が構築されており健康管理が出来ている。	施設の協力医療機関としては青山病院があり、そこでの診察を願っている。家族や入居者の要望があれば、従来からのかかりつけ医の受診も可能である。家族の同伴が原則であるが、職員が同行する場合もある。現在3名の方がかかりつけ医を利用している。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に一回、隣接協力病院の看護職員が入居者全員の病状把握・相談・指導に來設している。訪問診療に同席する事も多く、医療との連携は円滑に取れている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療法人が運営するGHである事から隣接の病院との連携は円滑である。医師・看護師のみならず、入退院についても病院内の地域連携室からの情報は個人情報に留意しながらも行われ、スムーズに連携できている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に入居者及び家族に対して、当GHにおける指針の内容を説明した上で、入居者の重度化時及び急変時には重度化対応について話し合っている。また、GHでの生活継続が困難と思われる場合においても適切な施設への転居を提案させて頂くなど、入居者及びご家族の意向を踏まえながら話し合っている。</p>	<p>本ホームでの基本的な入居生活での支援や介助について説明をし、納得された上で入所してもらっている。重度化に向かい始めた段階や看取りまでについては、家族と十分な話し合いをし、最も適した施設を紹介するようにし、医療介助が受けられるように配慮している。</p>	<p>家族との間に、これからも齟齬が生じないように、常に話しやすい環境づくりをされ、相互の信頼関係の維持継続を図られて下さい。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>隣接の病院内研修においても、看護師・病院ワーカーが参加するような急変時対応研修があり、GH職員はそれにも可能な限り参加してホーム内で振り返り勉強会を行っている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時対応マニュアルを職員は周知していると共に、消防訓練も定期的実施している。風水害の災害時に備えて消防署から借りた『非常時対応DVD』を職員と入居者で見て、皆で学び意識向上を行った。地震が発生した時や警報が発令された時に上位職は入居者、職員の安全確認を取っている。</p>	<p>年2回の避難訓練を実施している。1回は消防署の立ち合いで訓練し、もう1回はホームでの自主訓練をしている。訓練時では入居者を非常階段まで誘導し、屋外退避へは消防署員が実施する。ホームの正面に消防署があるのは心強い。</p>	<p>火災だけではなく地震や風水害などにも対応する専用避難訓練も実施され、万全の対策も願いたい。避難方法にも違いがあると考えられ消防署の指導が必要かと思われる。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては職員に、介護する上での根本的な姿勢を教育している。日々の中でも声掛け・プライバシーの保護を十分注意したケアを実践するよう努めている 接遇向上を目的とした外部研修に参加、ホームでも振り返り学習会を行っている。	人格の尊重やプライバシー確保に関する研修を受講し、常に認識を新たに行っている。名前には「さん」づけをしたり、排泄支援時には入居者の立場に立った心くばりを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたい飲み物の選択、衣服や野菜にかけるドレッシングの決定など、自己選択・自己決定できる状況では、必ず自分の意思を聞き、想いが反映できる生活づくりを行っている。自分の意志による外出レクのアンケートも試みた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に沿ったケアを皆が実践することと、だれが主人公なのか、を絶えず意識する事で入居者本位のケアが実践できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パジャマで過ごす、ということがないように入居者に無理なく声掛けし、ホーム内であっても人と会える装いで過ごしていただいている。女性の入居者が多いこともありおしゃれにも気を配り爪にマニキュアを塗られる方もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りに関しては開設以来、職員が意識して入居者と関わっている。台所横にテーブルを置き、数名で下ごしらえを行っている風景は、当ホームの自慢である。調理を行うことが困難な方にもできる事を見つけ参加して頂いている。	給食業者から食材の配給を受けホームで調理し配膳をしている。ホームの菜園で収穫した野菜を食卓に盛り付けする事もあり入居者に喜ばれている。調理の時は入居者の方からも職員の手伝いをされるなどし、生き甲斐にもなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	委託業者がメニュー作成と食材配達を行っており、栄養管理については問題がない。個人的な食事への留意については本人・家族と共に話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	施設口腔マネジメント計画をたて訪問歯科の医師・歯科衛生士から口腔衛生に関わる助言をもらい清潔保持を実践している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方については排泄チェック表を作成し、その方に応じたケアを提供するようにしている。出来る限りいつまでも布パンツを使用し、トイレで排泄できるように職員全員が尽力している。	排泄チェック表を利用して声掛けしトイレ誘導しているが、自立支援に向かって出来る限り見守り支援をし、その人なりの自立感覚を取りもどすようにしている。	自立支援には足腰をしっかりしてもらおうための歩行訓練も大切である。高齢であるため、やりすぎには注意がいる。日数と根気のいる支援がしいられる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事形態の検討、医師・看護師への相談・受診、家族への相談などあらゆる視点から予防に努めている。夜間帯トイレ誘導時にも水分補給を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間を決めず、その方に聞きながら、気分の良い時に入浴を楽しんでいただいている。ただ、体調変化のリスクがある為、対応できる職員の手が多い9時から17時頃の入浴にして頂いており、夜間入浴は実施していない。	週に2,3回の入浴はするが本人の気持ちや大切にすることに、特に日時は定めていない。入浴を楽しんでもらう為シャンプー・リンスなども自分の物を使っている。毎回、洗髪と湯の入れ換えはされている。暖色系の浴室は入居者に暖かさやリラックスさを与えている。	

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間は設けず、自然と自身から床について頂けるように心がけている。昼寝については体調に合わせているが居室でTVを見ながら自分の時間を過ごさせている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬のしおりを確認して薬についての理解を深めている。服用しづらい方には服薬方法など薬剤師の方に相談をしている。誤薬がない様、服薬者だけでなく確認者をもうけチェックを厳重にしている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>個別プランには役割を位置付けており、「一緒に生活を作り上げている」ことを実感して頂けるよう、菜園活動や食事作り・清掃、フロアのカーテンを閉めたりテーブルを拭いたり熱帯魚のエサやりをして頂き共同生活の中での役割を持っていただいている。</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>その方の想いに添えるような外出などの援助を行っている。家族の協力を得ながら、短時間の外出も行っている。外泊も行っている。月一回のペースでシルバー旅行会社を利用した外出も定着している。</p>	<p>入居者一人ひとりに合った外出をしている。ホームの菜園に出かけ外気浴をするのは日課でもある。春秋には通所リハビリの車を利用して花見に出かけ、合唱したりボール遊びに興じたりしている。また、家族と外出する方もいる。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にはGH内に個人での金銭持ち込みは禁止させて頂いている。しかし外出時の買い物・飲食や外食については前もって立て替えなどで対応し、買い物が楽しめる状況にはするように努めている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話取り次ぎ要望は少なく、掛かってくれば取り次ぐ程度。友人からの手紙や年賀状が届く方もおられる。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングの窓が大きく、駐車場を挟んで幹線道路に面していることから日当たりが良く、風景から季節の移り変わりが分かる環境である。ホーム内は清潔を保つようにして、居心地が良い空間作りを行うように心がけている。随時席替えを行い気分を変えて頂いている。</p>	<p>ホームの2階3階は同じ間取りであり、共に大きな窓からの採光でリビングの中は明るい。ぬり絵の作品、季節の飾り物、水槽の魚、など親和的な空間が演出されている。入居者も職員もこのリビングで一日を穏やかに過ごしている。</p>	<p>共用空間にやや大きめの縫いぐるみを2、3体置いてみては如何だろうか。また、水槽の中が少し見にくいようである。工夫されたい。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ハード自体が狭いことから、人同士が関わられる環境ではあるが、一人になれる場所は居室のみである。もう少し小グループで関わられるセミパブリックな空間があればなお良かった。</p>		

54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は、タンスなどの家具も今まで本人が使用していた馴染みの物を置いて頂き、その場所を自分の居場所だと感じて頂くように、また、使いやすいように自由にレイアウトして頂いている。食事の時は本人用の茶碗や箸・コップを使用している。自分が一人になれる居場所を持たれ窓から景色を見ている方もおられる。</p>	<p>馴染みの家具や衣服、食器、置き物が持ち込まれ、自分としての落ち着きのある生活空間が出来上がっている。清掃も自分で出来る範囲でされる方もおり、自分だけの部屋のこだわりを持つ事ができるように協力している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり。</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア内は基本的に全て自由な空間である。時計や掲示物を入居者の目線に合わせた場所に設置することで不自由さなく自立した生活への環境を心がけている。毎日の新聞を楽しみにしておられたりニュースを欠かさず見ておられる方もいる。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない